

自分たちの南の島！

「やっぱりすみれがいちばん♪」

園まつりが始まった日、いろいろなクラスに遊びに行った後、そう言いながら保育室にジャンプして戻ってきたお友達。自分たちで作上げた作品に誇りをもち、達成感をたっぷりと味わっていることが伝わってきました。

そんなすみれ組の“南の島”。園まつりが終わっても、いかだや火山で遊んだり、壊れているところを修復したりしながら、南の島がある生活が当たり前のように過ごしています。しかし、園まつりは終わったので、「南の島、どうなるの？」と気になり始めました。「どうしようね？」と私も何気なくつぶやいてみると、「とっておきたい～」とみんな。すると、「お部屋が狭くなっちゃうなら、みんなの広場に移動させよう」「でもひがしっこが困るよ」「じゃあホールは？」「体操とかできなくなっちゃう！」となんだか真剣なやり取りが始まりました。意外と現実的なみんな。

ところが、「じゃあ、外は？」「あーいいね！」「でも外に運ぶの大変じゃない？」「クレーン車で出すか！」「あっ地面に穴をあけて下に下すか！」「それいいかも！」「それか大きな袋に入れて・・・袋はいっぱいつなげて火山が入るように作ろう」と話が展開。

“え?! さっきまで現実的だったのに?!”と、まさかの話の流れに驚く私をよそに、子供たち同士の話は盛り上がっていきました。どこまで本気なのか分かりませんが、子供たちの“どうにかして南の島をとっておきたい”という思い、作品への愛着が伝わってきて、嬉しくなりました。

